

評価項目	評価内容	適用の考え方						
		論文・Paper	技術報告・ Technical Report	総説・Review	研究速報・Acoustical Letter	寄書・Short note		
						速報的	資料的	意見・提案・討論
1. 分野性	内容が、音響学及びその応用分野に関係していること	境界領域のものも積極的に採録する。						
2. 新規性	内容が公知・既発表，又は既知のことから容易に導きうるものでないこと。ただし，既知の要素の組み合わせにより新たな視点や機能等が認められる場合は新規性を認める。	必要。ただし有効性が高い場合（例えば資料的価値が特に高いもの）は，さほど高くなくともよい	さほど高くなくともよい	類似の分野・対象についてはほぼ同じ立場から論じたものが近年に公表されていなければよい	速報性を重視し，新規性，有効性のいずれか一方に評価できる部分があればよい	必要	さほど高くなくともよい	
3. 有効性	内容が産業や学術の発展に役立つものであること。必ずしも実験データによる比較は必要ないが，論理性が必要。	必要。ただし新規性が高い場合には，さほど高くなくともよい	必要	最も必要。当該分野の研究状況がバランスよくまとめられていること		さほど必要ではない	必要	意見・提案・討論の主旨に合っていればよい
4. 了解性	論旨が関連分野の会員に十分理解できるように簡潔に記述されていること。	関連分野の会員に十分理解できること			論文，Paper ほどの高い了解性は要求しないが，少なくとも同じ分野の会員に理解できること			
5. 信頼性	論旨に矛盾がなく，結論等を信頼する上での明確な根拠が示されていること	厳しすぎる判定をしないようにする		特定の研究グループの成果だけについて述べたり，一方的な見方だけを紹介するものでないこと	前提から結論までの論旨が通っていればよい 未検討部分があっても，それが主要課題でなく，結論を変えるほどの重大な影響が予見されなければよい	論文，Paper ほどの確実な根拠は必ずしも要求しない		相手を誹謗中傷するような内容でないこと
6. 体裁	投稿規定に定める体裁の規定を満たしていること	投稿規定に従って原稿が構成され，記述されていること						